

# 第1章 肝炎医療コーディネーター(肝Co)とは

## 問題

肝炎医療コーディネーター(肝Co)の説明として正しいものはどれですか？

- a) 肝Coは、肝炎患者等が、適切な医療や安心した生活を送れるよう支援する人材であり、地域・職域など様々な場面で、正確な情報を届け、受診の橋渡しや、偏見・差別のない社会づくりの基盤を目的としている。
- b) 肝臓の専門医療機関でない場合、肝Coは必要ない。
- c) 手術前検査等で実施される肝炎ウイルス検査の結果は、陰性ならば伝えなくてもよい。
- d) ウイルス性肝炎の助成制度は全国共通なので、他県の方が来院しても、同じように説明してよい。
- e) 肝Coの活動は多職種と連携しながら行い、自分で解決できない部分はほかの肝Coになぐことも活動である。

## 回答・解説

### a) 正解

肝硬変又は肝がんへの移行者を減らすという肝炎対策基本指針の目標達成に向け、「予防」、「受検」、「受診」、「受療」と「フォローアップ」が促進されるようそれぞれの強みを使い、正しい情報提供を行います。

### b) 間違い

肝臓専門医療機関だけでなく、かかりつけ医等地域との連携において非専門の医療機関(眼科、整形外科、産科、歯科等の肝炎ウイルス検査を実施する機関)や地域(行政や保健所、薬局、健診機関、企業(職域)、患者さん)等にも幅広く配置することで様々な場所での普及啓発や連携によって受診に繋げることができます。

### c) 間違い

平成30年度診療報酬改定において手術前の検査として肝炎ウイルス関連検査を行った場合、検査の結果が陰性であった場合も含め、検査の結果について患者に適切な説明を文書により提供する旨が規定され、令和4年度の改訂において、短期滞在手術等基本料についても、同様の取り扱いが規定されました。また、基本指針第3(2)カにおいても医療機関は、受検者に肝炎ウイルス検査の結果について確実に説明を行い、受診につなげるよう取り組む。」とされています。

### d) 間違い

肝Coの養成をはじめ、制度に関しても都道府県で要領が異なります。対象者の住民票がある居住地区の制度を利用することとなるため、都道府県、または肝疾患診療連携拠点病院へつなぐことが重要となります。

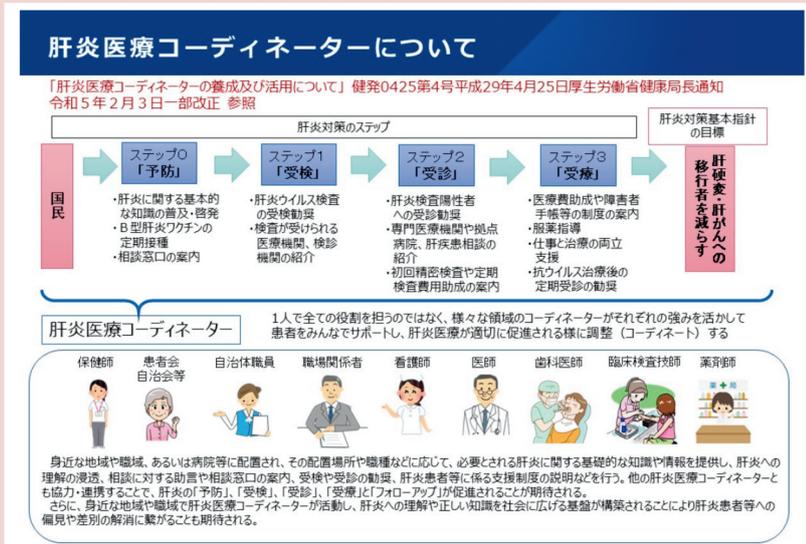
### e) 正解

肝Coは多職種で構成されています。そのため、自分の強みを生かして活動し、解決できないことは連携し、つなげることも活動の一つです。その場ですぐに解決できなくても、正しい知識を伝えるため、適切な場所につなぐことが求められています。

## 肝Coに必要な知識

### 肝Coとは

肝炎医療コーディネーター(肝Co)とは、肝炎患者等が適切な肝炎医療や支援を受けられるように、医療機関、行政機関、その他の地域や職域の関係者間の橋渡しを行います。肝炎ウイルス検査の受検、検査陽性者の早期の受診、肝炎患者等の継続的な受療の促進、行政機関や医療機関によるフォローアップが円滑に行われるようにすることを基本的な役割としており、各都道府県毎に養成されています。



(文献2より引用)

### 肝Coの活動について

肝Coは、一般の方から医療従事者、行政など、幅広い方々で構成されています。その使命は、肝炎対策基本指針が掲げる「肝硬変・肝がんへの移行者を減らす」という目標を達成することです。そのため、様々な職種の肝Coがそれぞれの強みを生かし、予防からフォローアップまでを促進します。具体的には、正しい知識の提供や相談への助言、受診勧奨、制度説明などの活動を通じて、患者さんやご家族を適切に支援します。

それぞれのステップにおける活動や活用できる資料についてはこちらをご参照ください。



ステップごと活動支援情報

## ◆ 基本的な役割及び活動内容

肝炎医療コーディネーターの役割として、

- ① 地域や職域における肝炎への理解の浸透
- ② 肝炎患者やその家族からの相談に対する助言
- ③ 行政や拠点病院などの相談窓口の案内
- ④ 肝炎ウイルス検査の受検勧奨
- ⑤ 陽性者等に対する専門医療機関の受診勧奨
- ⑥ 肝炎医療費助成や肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業などの肝炎患者等を支援する制度の説明などが定められています。

(文献2より引用)

## ◆ 配置場所と主な活動内容について

肝Coの配置により、患者や家族への支援をきめ細かく行うことで、社会全体への正しい知識の普及と理解促進が期待されています。また、地域の専門職や身近な人々による声かけによって、「予防」「受検」「受診」「受療」「フォローアップ」が円滑に進み、重症化の予防にもつながります。さらに、地域活動を通じて、肝炎に対する偏見や差別の解消にも貢献することが期待されています。職種別の具体的な内容については、肝Co活動支援サイトに掲載していますので、ぜひ一度ご覧ください。

配置先	活動の具体例
医療機関・拠点病院等	検査や治療、フォローアップの案内、制度説明、相談、啓発、市民講座や患者サロンでの支援、肝疾患チームの立ち上げと活動
行政(県・保健所・市町村)	啓発・相談、検査・受診の案内、制度の普及
企業・職域	社内啓発、従業員の受検、受診の勧奨、治療と就労の両立支援
地域団体・患者会など	地域での啓発、医療機関への案内、共感による支援



職種別活動ガイド

(執筆者作成)

## ◆ 肝炎ウイルス検査の結果説明について

肝炎ウイルスの検査を勧める際、受検歴を把握されていない方、結果を知らない方と遭遇することがよくあります。肝炎対策基本指針第3(2)カにおいて医療機関は、肝炎ウイルス検査の結果について確実に説明を行い、受診につなげるよう取り組む、と明記されています。また、平成30年度の診療報酬改定において、手術前医学管理料の算定留意事項として、本管理料に包括されている肝炎ウイルス関連検査を行った場合には、当該検査の結果が陰性であった場合も含め、当該検査の結果について患者に適切な説明を行い、文書により提供する旨が規定され、さらに、令和4年度の診療報酬改定において、短期滞在手術等基本料についても、同様の取扱いが規定されています。陰性の方にも認識をしていただくこと、そして陽性の場合には確実に専門医へつなげるのが重要です。

(文献2より引用)

## ACPとは…

アドバンス・ケア・プランニング(ACP)は、患者さんとご家族が自身の価値観や目標をもとに、将来の医療やケアについて前もって考え、医療者と共有していく大切なプロセスです。慢性肝疾患では、増悪と回復を繰り返す中で「もしもの時」を話す機会を逃しやすく、早い段階から関係を築き、思いを共有していくことが重要になります。

肝Coは、患者さんの気持ちに寄り添いながら傾聴するだけでなく、多職種との間をつなぐなど、状況に応じてさまざまな役割を担います。日々の関わりの中で知る、患者さんの望む生活や大切にしている思いは、ACPを進めるうえで欠かせない大切な土台になります。また、ちょっとした声掛けや傾聴がACPの始まりになることも多く、継続して関わる肝Coだからこそ、患者さんが安心して思いを話せる存在となり、治療の場が変わってもその希望を丁寧につないでいくことが期待されています。

## ◆ 肝Coは医療従事者だけではない！

肝Coは、肝炎に関する正しい知識の普及を前提に、感染症に対する歴史的な偏見を踏まえながら、人権を尊重した行動のあり方について学ぶことが重要です。

近年では、医療従事者だけでなく、肝炎患者自身やその家族も「肝炎医療コーディネーター(肝Co)」として活躍しています。当事者の視点から支援に携わることは非常に有意義であり、偏見や差別解消、患者の権利擁護、そして個人情報保護の理解促進にも貢献します。肝Coには、患者の気持ちに寄り添い、共感する姿勢とそのための支援技術が求められます。

患者肝Coの活動事例については次の章をご覧ください。



## 先輩肝Coからのアドバイス

肝Coに認定されたものの、「何から始めたらよいのか」と不安を感じる方もいるかもしれませんが。私たちも最初は同じ気持ちでした。まずは、身近な方に「肝Coになりました」と伝えるだけでも大きな一歩です。また、日々の業務の中で「今の自分にできることは何か」を考えることが、活動の良いスタートになります。小さな行動の積み重ねが、やがて大きな広がりにつながります。

活動のコツは、肝Coのことを周囲に知ってもらうことです。肝Coは、多職種が専門性を活かして協力することで力を発揮します。そのためにも、まず仲間を増やすことが大切です。身近なスタッフに役割を伝えることで、「一緒に活動したい」と思ってくれる方と出会えるかもしれません。また、職場で活動を広げるには、上司の理解も大きな後押しになります。認定されたことや、自分にできそうなことを率直に相談してみてもいいでしょうか？ 心強い応援が得られるかもしれません。

## 具体的な活動について知りたい！

肝Coの具体的な活動事例や、先輩肝Coの活動等知りたい方は  
ホームページを参照して下さいね！



肝Coと仲間たち  
ホームページ

# 患者肝炎コーディネーター(患肝Co・かんかんこ)とは



患者肝炎コーディネーター(患者肝Co)は、同じ経験をもつ“患者同士”だからこそ悩みや不安を共有し、寄り添いながら支えあう存在です。

検査・治療・日常生活で感じた思いを理解し合い、その実体験をもとに、患者さんが前向きな一歩を踏み出せるよう手助けします。治療の最終的な決定は患者さん自身。医療行為や専門的な助言を行う立場ではないため、その選択を尊重し、同じ立場から支えることを目標に活動しています。

## 患者であるからこそできる活動がある

肝疾患診療の促進のためには予防から受検、受診、受療、フォローアップの流れの中で活動を行います。それぞれの立ち位置での患者肝炎医療コーディネーターの強みを生かした活動を右に示します。患者だからこそできる役割があります。



(文献5より引用)

## もっと早く相談していれば……

「もっと早く検査を受けていたら」「もう少し前に専門医を受診していたら、肝硬変や肝がんを防ぐことができたのに」と後悔する患者さんが多くいます。このような方を一人でも減らすために、世界肝炎デーや地域のイベントを通じて、一般の方に肝炎を放置することの危険性や早期検査の重要性、そして現在の治療方法などを広く伝える活動も行っています。



患肝Coの活動



## 先輩肝Coからのアドバイス

肝Co活動をするうえで、心にとめておいてもらいたいことがあります。それは肝炎が感染症ということで、肝炎患者さんが受ける偏見や差別がまだ現実にあるということです。

厚生労働行政推進調査事業費(肝炎等克服政策研究事業)「様々な生活の場における肝炎ウイルス感染者の人権への望ましい配慮に関する研究」(八橋班)の調査では「肝炎に感染していることで、差別を受けるなど嫌な思いをしたことがありますか」という質問を、4789人の肝炎患者さんにお尋ねしたところ、「あります」と回答された方の頻度は16.3%でした。肝Coの方には、このような声に耳を傾け、肝炎の正しい知識を広めることも重要な活動だと思いますし、患肝Coはこの事実と思いを医療者を含め多くの方に知っていただくことが重要な役割だと思います。

(文献4より引用)

## 実際に相談によせられた偏見・差別の事例

- ・ 歯科でB型肝炎と伝えたら「うちでは診られない」と断られた。B型肝炎の患者は皆どこで診てもらっているのか。
- ・ 高齢者介護施設でC型肝炎とわかると、入浴を最後にされ嫌な思いをした。
- ・ 会社で今年からウイルス肝炎検査を始めることになり、悩んでいる。
- ・ これから介護の仕事をしようと思っているが、施設にB型肝炎のことを伝えるべきか。
- ・ ワクチンが効かずHBVキャリアとなった子供が保育園に入れない。他の子供たちはみな新生児の時にワクチンを打っているのに…
- ・ 付き合っている人と結婚を考えているが、B型肝炎ということは伝えていない伝えなければと思っているが言い出せない。どうしたらよいか。

(文献4より引用)

## Topic

「様々な生活の場における肝炎ウイルス感染者の人権への望ましい配慮に関する研究」(八橋班)のホームページでは実際の事例に対する対応や、啓発の動画、感染クイズなど多彩なコンテンツがあります。ぜひ一度ご覧になってはいかがでしょうか



(文献4)

## 参考文献

1. 肝炎対策基本指針
2. 厚生労働省ホームページ
3. 肝炎医療コーディネーター(肝Co)活動支援サイト
4. 厚生労働行政推進調査事業費(肝炎等克服政策研究事業)「様々な生活の場における肝炎ウイルス感染者の人権への望ましい配慮に関する研究」(八橋班)ホームページ
5. もしも患者が肝炎医療コーディネーターになったら/ (肝Co活動支援サイト)